

3.地域の防災・減災の基本的考え方

淀川や神崎川と共存してきた東淀川区のまちの地域特性等を踏まえて、本地域の防災の取組みの基本的考え方を以下のように設定する。

■地域防災の基本理念

『淀川や神崎川など地域の自然と共存する安全・安心なまちをめざす』

◆防災・減災の基本方向



◆水と共存するまち

- ・淀川や神崎川とふれあえる水辺の憩いのある、安全・安心なまちをめざす
- ・地区の自然環境を理解し、これを活かした防災・減災を心がける
- ・区民が積極的に防災・減災に取組み、被害を積極的に低減する活動を展開する

◆災害特性を知るまち

- ・土地の高さや柔らかさなどの災害に関わる自然環境を理解する
- ・高齢化地区や過密市街地などの災害時の弱点を知り、これらの課題を克服する取組み
- ・様々な災害特性を表した、地区特性を反映した防災マップの作成・充実・更新を進める

◆安全・安心のあるまち

- ・水害にも地震にも強い安全・安心なまち
- ・区民や行政・教育機関・企業などの連携・協力による、安心なまち
- ・防災情報や防災訓練など、地域連携を通じた、地域防災力の高いまち



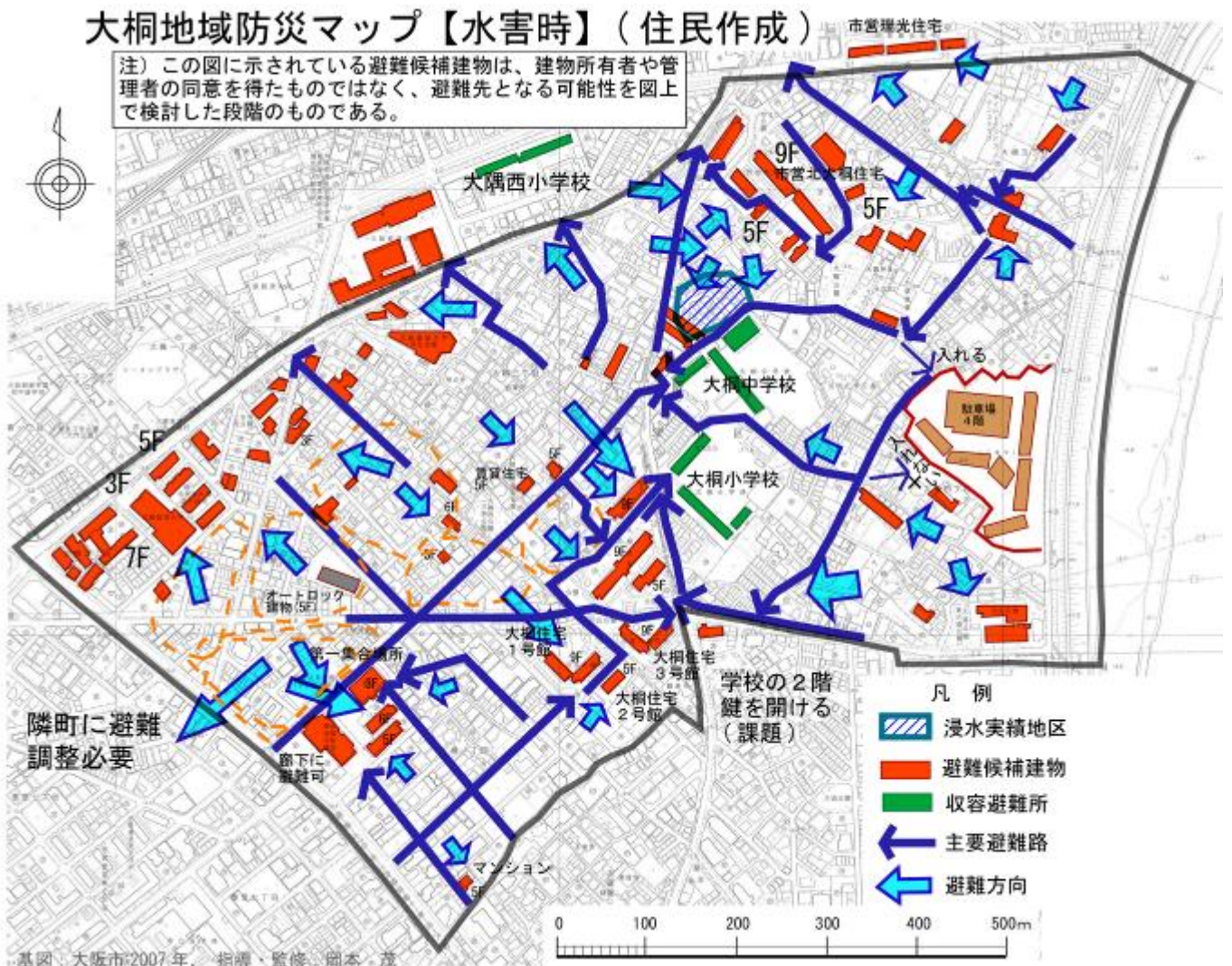
4.防災マップ

専門家による防災講演やワークショップ等への住民参加により、地域特性を理解し、この特性に基づいた防災課題を解決することを主体に取り組んだ防災マップを作成した。

この防災マップは、洪水や地震時に、住民の避難行動を考える上での最重要課題を中心に取組み作成したものである。したがって、一般に作成される防災マップに表示されるような、防火水槽や消火栓等の詳細な防災設備を網羅するためのものではなく、洪水時等に避難先が危険な状況が予測されることから、「命を守ることを最優先とした」防災マップである。

これまで、東淀川区で作成された防災マップ情報には、各種防災関連設備等が示され、これらの情報と総合して活用されることが望ましい。

なお、この防災マップに表示している避難候補となる中高層建物は、あくまで候補であって、今後の建物管理者等との協議・同意等が必要であり、確定したものではないことに留意が必要である。



防災マップの作成は、水害時と地震時に分けて作成した。水害時には避難所が浸水することが予想されることから、低層住宅の人はいち早く最寄りの中高層建物の上層階への避難が求められ、地震時の収容避難所への避難方向・避難経路が異なることが予想され防災マップを区分して作成した。

このため、これまでは、災害時には収容避難所へ、と避難先や避難経路を1通り記憶しておけば安心とされてきたが、避難先や避難方向が水害時と地震時で異なる方向となったことに、留意、周知しておく必要がある。

